

国民健康保険被保険者証 (兼高齢受給者証)の再交付について

70歳～74歳の人

現在、国保加入の70歳から74歳の人には、個人の負担割合を記載した保険証を交付しています。

＜記載内容＞保険証の資格欄……前期高齢者【2割(ただし平成22年3月31日まで1割)】

この度、平成21年度第2次補正予算政府案が閣議決定され、「70歳から74歳の医療費自己負担増(1割→2割)の凍結措置の延長」が実施されることになりました。

これに伴い、70歳から74歳の負担割合は、平成23年3月31日までは1割に据え置きとなり、保険証を再交付する必要があります。

70歳から74歳の国保被保険者の人へは、3月下旬に有効期間4ヶ月の保険証を交付(簡易書留にて各家庭へ配布)予定です。

＜記載内容＞保険証の資格欄……前期高齢者【2割(ただし平成22年7月31日まで1割)】

※8月以降の保険証については、7月下旬に交付する予定です。(保険証の有効期間が8月から翌年の7月までの1年間のため)
※負担割合が3割の人(現役並み所得のある人)は、変更がないので、保険証の再交付はありません。

問い合わせ先 本庁 税務住民課 国保年金係 (内線 513) / 総合支所 税務住民課 住民係 (内線 752)

国民年金の保険料が改定されます。

平成22年4月から平成23年3月までの保険料は1カ月15,100円です。

※国民年金の保険料は税控除の対象となっています。

■付加保険料

自営業などの人(第1号被保険者)は、付加保険料(1カ月400円)を納めて、より多い年金を受けることができます。

■国民年金保険料の納め方と免除

種 類	保険料の納付時期・保険料の免除期間	納付の方法・免除の申請
毎月納付	毎月の保険料は翌月末日まで納付	日本年金機構から送付される納付書で金融機関等に納付するか口座振替で納付
前 納	1年分あるいは定められた期間の保険料を一括納付	同上(保険料が割引かれます) 口座振替にすると割引額が増えます。また、月々の口座振替を早割(当月保険料の当月末引落し)にすると、50円が割引になります。
保険料の免除	申請により保険料免除承認を受けた期間	経済的な理由で保険料を納めることができない時は、市町村窓口で申請します。
学生の納付特例制度	申請により納付特例の承認を受けた期間	
若年者納付猶予制度	申請により納付猶予の承認を受けた期間	

※保険料の免除を受けた期間は、10年以内であれば追納できます。

※学生の納付特例期間中および若年者納付猶予期間中の障害・死亡事故に対しては、障害基礎年金・遺族基礎年金(該当者がいる場合)が受けられます。

※保険料免除を受けた期間は、追納しなければ老齢基礎年金には反映されず、年金受給の資格期間に算入されるだけとなります。年金額が減額されます。

※若年者納付猶予制度は、平成17年4月から平成27年6月までの時限措置です。

問い合わせ先 本庁 税務住民課 国保年金係 (内線 519) / 総合支所 税務住民課 住民係 (内線 751)

町立病院からのお知らせ

早いもので、和永(菊水)町立病院に就任して今年の4月で丸8年になります。当時、常勤医は、外科2人、内科3人、整形2人、小児科1人の計8人でした。地方自治体病院の医師不足が始まり、まず平成18年4月から常勤の整形外科医がいなくなり、週2回午後からの非常勤医の診察となり、その他の診療時間は外科医が対応することになりました。

さらに平成19年4月小児科医が開業され、常勤医は5人となり、平成21年9月内科医の開業にて現在常勤医が4人となりました。しかし他の病院や、福祉・保健施設などと連携を密にし、大学病院などからの医師の応援を受けながら全職員の奮闘により、これまでの診療レベルを低下させることなく維持しております。

現在の外科の診療内容は、以前とあまり変わらず、午前中は、外来診察及び検査(胃カメラ、腹部超音波検査、乳腺・甲状腺超音波検査)をしています。また火曜と水曜の午後が手術日です。手術がない平日の午後は、大腸内視鏡検査、ERCP(内視鏡下膵管胆管造影)、治療内視鏡(胃ポリープ、大腸ポリープ切除)をしています。

皮下のしこり(粉瘤、脂肪腫)切除や陥入爪手術の局所麻酔手術は、適宜外来でしております。外科での手術は週に1~2回程度ですが、乳癌、胃癌、大腸癌、直腸癌、胆嚢癌、甲状腺癌、肺癌などの悪性疾患、また胆石、総胆管結石、大腸憩室(炎、出血)、腸閉塞(イレウス)、急性腹症(腹膜炎など)、急性虫垂炎(盲腸)、内痔核、鼠径ヘルニア(脱腸)、下肢静脈瘤などの良性疾患と幅広く手術しています。

特に、胆石、胆嚢炎、胆嚢ポリープに対しては低侵襲性の腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行しております。このような手術患者の術前精査、手術、術後外来経過観察を外科で行っています。また住民検診精密検査、人間ドック検査など行い地域密着の診療を行っています。最近では、胃ろうという言葉をよく聞きますが、脳梗塞後など食事が摂取できない患者さんに対して、長期経鼻胃管栄養からPEG(経皮内視鏡的胃瘻造設術)を施行し、日常生活の向上にも努めています。

みなさんの関心が高い疾患として挙げられるものに、大腸癌、胆石、乳癌があります。まず最近増加している大腸癌ですが、当院の大腸癌検診の要精検率は数%です。便潜血陽性で当院受診され、全大腸内視鏡検査を施行します。すると4割近くに腺腫(ポリープ)が見つ



かります。大きさで、治療法が変わり、5mm以上なら当日に大腸内視鏡下ポリープ切除、20mm以上なら悪性も十分考えられ開腹手術も考慮というところでしょうか。

次に、胆石ですが、90%以上無症状ではありますが、胆嚢炎をおこしたり、胆石発作で痛みが出たり、胆石がない人に比べ10倍以上胆嚢癌になりやすいと言われており、患者さんの希望も考慮していずれ手術した方がいいと説明しております。当院でも、大きく開腹せずに、4個の小孔より腹腔鏡、鉗子を使って胆嚢を切除する腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行しています。入院期間は7日前後で、術後2週間で社会復帰されています。

最後に、近年増加の一途をたどっている乳癌ですが、現在すでに40歳から70歳の女性がかかる癌の第1位となっています。症状は乳房にしこりを触れるがほとんどで、約90%を占めます。触診に加えて超音波検査(乳腺エコー)で診断しますが、実際は乳腺症、乳腺嚢腫がほとんどです。確定診断には針生検をおこないます。乳癌は自分で見つけることができる癌です。乳房にしこりを感じても、乳癌でないことのほうが多いので心配せずにまずは外科を受診してみてください。

和永町立病院 外科部長
岩永祐治